

「家族農業の10年」「農民の権利宣言」を考える国際フォーラム

2019.5.25 明治大学リバティタワー

国連では、2019年から10年間を「家族農業の10年」、昨年12月には「小農と農村で働く人々の権利宣言」が採択され、農業と食料供給の大部分を担う小規模・家族農業を再評価する流れが進んでいます。ビア・カンペシーナの東南・東アジア会議の一環として国際フォーラムが開かれました。主催者を代表して笹渡全国連会長が「今、世界の流れは持続可能な社会を作ること、これを機に「家族農業の10年」「農民の権利宣言」が東南・東アジアで実効あるものに発展するスタートの集会にしよう」とあいさつ、参加者は各国の状況と家族農業の果たす重要な役割を共有しました。

基調報告より



農民の権利宣言作成にかかわった
法律アドバイザーの
ヘンリー・トーマス・シマルマタさん

「農民の権利宣言」は世界的な食料危機が広がる中、農民と農村運動による飢餓と貧困の問題に取り組む努力が合流した物であり、問題解決の重要な国際法です。この宣言には罰則規定はないが、守るべきことの基本が書いてあり、それぞれの国でどのように実施するかは各国の運動の広がりにかかっています。



ビア・カンペシーナ東南・東アジア
国際調整委員の
キム・ジョンヨルさん

農村における女性たちは家族を支え、生産現場でも重要な役割を担っているが土地所有、金融サービス、情報や知識を得る困難さを抱え、また様々な暴力と差別に苦しんでいます。権利宣言前文では女性の権利の重要性を明文化、経済的自立の大切さ、その支援の重要性が示されています。国際的にも国内的にも様々な団体との連帯と共同行動が大切で、農業女性の権利が守られるというところは性別に関係なくすべての農業に関わる人たちの権利を守ることになります。



引き続き行われたレセプションでは国産食材100%の料理と輪になって踊った「365日の紙飛行機」で大いに盛り上がり、家族農業10年のスタートを祝いました。



農民連フラッシュ flash

持続可能な農業国際シンポジウム

6月2日長野市内において持続可能な農業国際シンポジウムが開催され、福島県から参加しました。基調講演では「なぜ、いま時代はアグロエコロジーなのか」と題して、カリフォルニア大学バークレー校のミゲール名教授が世界の農業情勢を報告しました。持続可能な農業生産のためには、家族農業への支援とアグロエコロジーへの転換が必要だと報告されました。



県北



苗を手に来年は
田植えデビューかな？！



9条田んぼ 田植え

5月26日(日)一足早い猛暑日の中、県北農民連の9条田んぼの田植えを行いました。

新婦人・農民連会員が20名ほど参加し、今年は「ずーっと戦争させないヨ」の文字を植え付けました。こども達のはしゃぐ声が響き、カエルを追いかけたりにぎやかな田植えとなりました。

田植え終了後には桑折町内をトラクターと軽トラでパレードし、「憲法9条を守ろう！」「日本の米を守ろう！」とアピールしました。昼食後には生産者のご厚意で、採り放題のいちご狩りを楽しみました。文字の仕上がりを見学すると稲の生長が楽しみです。

郡山



一仕事あとの
ごはんは最高！！



6月2日に郡山市石筵で行われた9条田んぼの田植えに農民連、新婦人の会員15名が集まりました。農民連の橋本整一さんの田んぼ30aに今年は「9 NOW AR」の文字を描くことに。早速田植え開始です。田んぼには既にうるち米が植えられ、そこに紐で文字を描き、文字部分を黒米の苗に植えかえます。

さんは「いいもの、我がで納得いくものをつくるため百姓をやっています。いいものをみんなに食べてもらいたい。今だけ自分だけゼニだけにならないように、今度の参議院選挙もがんばっていこう」とあいさつ。おいしいものをつくり、食べる。今日からまた平和への一歩を踏みだします。



愛知学院大学准教授で小規模・家族農業
ネットワーク・ジャパンの
関根佳恵さん

貧困や格差の広がり、飢餓や気候変動、自然資源の枯渇、グローバル化の広がりと共に食の安全が脅かされ、農業人口の高齢化が進んでいます。これらは緑の革命、新自由主義、多国籍企業もたらしたものであり、持続可能な社会への移行なしには問題が解決しません。世界の潮流から取り残されている日本だが、しかしアグロエコロジー実践の多様な経験を持っている家族農業を農業・食料政策の中心に位置づける運動を広げるためにそれぞれが当事者として関わってほしい。

後半は各国の状況や運動について報告が行われ、協同組合を力に大学と連携し、教育や訓練に取り組む東ティモール、土地の収奪に苦しむ農民と「権利宣言」をツールに闘いを広げているタイ、権利宣言の普及と国内法の是正に取り組むインドネシア、長年農民問題で闘い続ける韓国、日本ではTPPや日欧EPAで国内農業が困難さを増している中、参議院選挙が行われ農政、暮らしを考えるチャンス、主権者として取り組んでいこう等、それぞれの国で運動を広げ連帯していくことを確認、「ビバ！ビア・カンペシーナ!!」のエネルギッシュなコールで閉会しました。6月には家族農林漁業プラットフォーム・ジャパンが設立され、様々な立場の関係者が協力し、具体化が期待されています。

安全な食糧と家族農業を守る一大阪産直交流会

6月4日から8日の5日間、大阪府内184箇所大阪新婦人との産直交流会が行われました。輸入小麦製品から基準値以下ではあるが、残留除草剤が見つかるなど食の安全が脅かされている現状や、世界の潮流は家族農業を支援することが持続可能な世界を作ることなどが話し合われました。



NOTE 青年部の活動、地元の農や食のことをリレーで紹介

若い農業者のつみやきのーと せいねんぶ農人

会員さんの田んぼで米づくりを手伝い早数年。その名も「棚田を守り隊」。初めて田植えをする仲間もいて、また賑やか。年に一度のことだが手植えも手馴れてきたようだ。うれしい。なにより仲間と作業ができるのが楽しいのだ。 by岩淵

